



ユズリハ物語

三喜電設株式会社 取締役会長 小畑ミユキ



1986年男女雇用機会均等法が出来た時、大企業は女性の取締役を、女性鉄筋工、大型トレーラーやタクシーの女性運転手等と競って新聞紙上を賑わしたものです。あれから25年女性の職域が広がり、女性経営者も当たり前となり若い経営者も育っています。父親の後を継ぐ女性、自ら企業を起こす女性など女性経営者のそれぞれの活躍ぶりを紙上に飾って頂きたいと企画しました。今月号よりシリーズでお送りいたします。

爽やかな秋晴れの日、奈良の桜井へ植物観察に出かけた。その時、農家の庭先に1本のユズリハの木に出会った。案内人のお話によるとユズリハの木は、春に枝先に芽吹いた若葉の成長を見定めてから、古い葉が若葉に譲るように落ちることから名づけられたそう。よく見ると枝先の方から若い葉、濃い緑色、黄土色、茶色、こげ茶色の葉と順に付いていて下から順番に枯れて落ちるそう。 “親が子を育て家が代々続くように”と葉をお正月の縁起物に使われている。

ユズリハの名の由来を聞きながら、植物界も人間界と同じで世代交代の方法もいろいろとあるのだなあ！と6年前のことを思い出していた。

そうです。私もユズリハと同じように社長を娘婿に譲り、会長となった。

当時、周りを見渡すと世代交代で若返り、大企業では40代の部長、50代の社長と賑わい、IT・コンピューターの時代に突入していた。遅れないようにわが社もITシステムを導入していた。社内では後継者として成長した若い娘婿と娘婿を支える社員たちに会社も活気に満ち溢れていた。私は歳には勝てず、新しいことに挑戦するパワー不足で社長業25年を機に退任した。

若い社長に、得意先の方より社長就任おめでととお祝いの電話などを頂き、私には長年ご苦労さま、良かったですねと声をかけて頂いた。

今振り返ると、事業継承は難しいと世間では言

われているが、やはり人間にも旬と言うものがあり、時機にうまく乗れば無理なく継承できたことを実感して大いに感謝している。

その後、シニア自然大学校に入り、1年間自然環境と植物・昆虫・鳥の名前からあらゆる生物の生態系など学ぶ。卒業後、春夏秋冬野山を駆け巡り、ヤマユリ、ササユリ、キンラン、ギンランの山野草に引き寄せられている。ツチアケビに出会った時の感動は今でも忘れません。花を咲いている時もさることながら、実がウィンナーソーセージによく似ていて、その実が32個も幹にぶら下がっているさまには本当に驚かされた。又、子供たちにドングリや木枝など自然素材を使って工作を教えたりしている。

180度違う世界で、今まで出来なかったことを取り戻すように夢中になり、パワーを全開して頑張っているユズリハである。

プロフィール

昭和55年 三喜電設代表取締役社長に就任

平成17年 代表取締役社長を退任し会長に就任

現在に至る

事業内容；

地方自治体の上下水道プラントの電気設備工事

一般産業、ビルの受変電設備及電灯動力電気工事

当協会の常任理事、“産業能率”の編集委員